

# 沖縄県平和祈念資料館だより



## ～ 平和の大切さを心に～

天皇、皇后両陛下が、去った10月22日、即位後初めて沖縄を訪問されました。両陛下は、糸満市摩文仁の国立戦没者墓苑で、沖縄戦で亡くなられた方々に供花をされ、沖縄平和祈念堂や平和の礎を訪問された後、沖縄県平和祈念資料館にご来館されました。陛下のご来館は、2010（平成22）年に皇太子殿下として初めてご来館されて以来2回目、皇后さまは、初めてのご来館となりました。両陛下は、沖縄戦の展示において、砲撃などで犠牲となった住民の数々の写真や、沖縄戦を体験した住民の証言などをお読みになられ、「大変痛ましい。」と幾度となく感想を述べられました。また、沖縄戦に関する貴重な資料や証言等について、「こうした資料を収集し、後世に伝えようとしてきた方々の努力に敬意を表したい。」とも述べられました。

沖縄戦の展示をご観覧後、太平洋の海原と青く広がる空をご覧になり、皇后さまは、「こんなにも美しい場所で、こんなにも悲惨な沖縄戦が起こったのですね。」と話されました。

日本復帰50周年記念特別企画展「アメリカ世の記憶」では、所要時間を超える中、陛下から、「それでも、全て見てまわりますよ。」とのお声かけがあり、戦後も、米国統治下でたくましく生き抜いてきた県民の方々の足跡を辿りながら、「これは、コザ騒動ですね。」「（730について）子どもの頃でしたが、よく覚えていますよ。」と話されました。両陛下は、同日、侍従を通して、「沖縄戦の悲惨さや、私たちが現在、享受している平和のありがたさを思い、改めて平和の大切さを心に刻みました。」との感想を発表されました。

終始、沖縄戦で犠牲になった方々を悼みつつ、資料を熱心にご覧になられ、沖縄が辿ってきた苦難の歴史に思いを馳せておられる様子でした。

これからも当資料館は、展示活動や企画展、沖縄戦の証言の収録など、様々な取組を通して、多くの方々に「沖縄戦から得られた教訓」や「平和の尊さ」について、考える機会を提供できるよう取り組んでまいります。

## ～沖縄戦の実相の継承に向けて～

史上まれに見る苛烈を極めた沖縄戦では、約3箇月に及ぶ「鉄の暴風」が、20数万人の尊い命を奪い去り、美しい自然や貴重な文化遺産をも破壊し、私たちの郷土は焦土と化しました。また、地獄のような戦場をくぐり抜け、愛する家族を失いながらも、辛うじて生き延びた人々の心と身体に生涯消えることのない深い傷を残しました。

あれから、77年もの歳月が経過し、戦争を知らない世代が増える中、1945（昭和20）年以前に生まれた県内の「戦前・戦中世代」の人口が、2022（令和4）年中に約14万1千人となり、総人口に占める割合が1割未満になると予測されています。

沖縄戦体験者は、凄惨な地上戦の実態や多岐にわたる戦争被害を生々しく浮かび上がらせ、戦争を知らない世代に、悲しくも凄絶な戦争の記憶を語りかけてきました。これまでは、身近な祖父母や学校での平和講話など、体験談を聞くことができる機会があったからこそ、沖縄戦体験者のいない沖縄を想像するのは難しいですが、体験者から直に話を聞けなくなる日が確実に近づいていることに、大きな危機感を覚えています。

沖縄戦を語る上で、物的証拠が少ない中、無念の思いで亡くなった犠牲者を代弁できるのは、戦争を体験した方々の証言であり、戦争の記憶を風化させないよう、沖縄戦の実相や教訓を、次の世代に正しく伝えていくためにも、その証言は貴重な歴史史料となります。

当館においては、砲弾の中をかいくぐった住民、ガマの惨劇、学徒隊、従軍看護師としての体験者からの証言を、中南部での激戦地を中心に、北部や離島なども含め145人の証言文と、1,039人の証言映像を収録しています。さらに、これらの証言を世界に発信できるよう、多言語化にも取り組んでおります。

このほか、児童・生徒が、詩・作文・図画の創作を通じて表現する「平和メッセージ」を県内外に発信するとともに、アジアの戦争経験国の若者と、沖縄、広島、長崎の若者が一緒に学び、共通理解を通して、アジア・太平洋地域の安定と平和の構築を目指す、「平和への思(ウム)い」発信・交流・継承事業や、米国統治下27年間の歴史をテーマに「復帰50周年記念特別企画展～アメリカ世の記憶～」を開催するなど、「命と平和の尊さ」を実感できるよう様々な取組に努めているところです。

今なお、世界においては、ロシアによるウクライナ侵攻をはじめ、様々な地域で紛争が起こっています。多くの罪のない民間人（市民）の命が奪われ、美しい自然や街並みが破壊され、死と隣合わせで生きることを余儀なくされているウクライナの現状は、77年前の住民を巻き込んだ痛ましい沖縄戦の記憶を呼び起こし、人々の心に大きな衝撃と深い悲しみを与えています。

当資料館においては、今後、ますます沖縄戦体験者が減少していく状況下において、「命どう宝」という沖縄戦から得た教訓を後世に伝え、二度と戦争を繰り返さない「恒久平和」の実現に向け、「平和発信の拠点」としての役割を果たせるよう尽力いたします。引き続き、多くの皆様方のご来館をお待ちしております。

沖縄県平和祈念資料館  
館長 前川 早由利

# 令和4年度第21回特別企画展 アメリカ世の記憶 ～日本復帰50周年記念特別企画展～

**期間** 2022(令和4)年10月3日(月)～11月30日(水) **場所** 企画展示室

沖縄戦終結後、本県は米国の占領下に置かれ、日本から切り離されました。戦禍で荒廃した郷土で住民は、文字通りゼロからの出発を余儀なくされ、戦後27年間続く米国統治下いわゆる「アメリカ世」を生き抜いてきました。本展は、沖縄の日本復帰50周年を記念して、当館が収蔵する昭和20年～47年頃の「アメリカ世」の沖縄及び昭和53年の交通方法変更「7・30(ナナ・サン・マル)」等に関する資料を中心に、各分野による展示を行います。当時の時代を認識することは、戦後沖縄のあゆみや現代も続く、在沖米軍基地をめぐる諸問題の歴史的背景を知るうえでも重要です。本展示を通して、沖縄の日本復帰について、平和について考える機会になればと思います。



## 展示構成

- 1 アメリカ世のはじまり
- 2 アメリカ世の政策
- 3 アメリカ世の社会
- 4 沖縄の日本復帰へ
- 5 道路の復帰 730 (ナナ・サン・マル)



展示会場の様子

## 第2回ギャラリー展 戦争体験者からのメッセージ ～今わたしたちへ伝えたい 残したい ことばがある～

沖縄戦終結から77年が経過しました。沖縄戦では、県民の約4人に1人が亡くなったと言われています。体験者の中には、現在でも戦争によって負った「心の傷」に悩まされている方もいます。体験者の多くがご高齢となった今、直接お話を聞くことが困難になってきており、昨今の感染症の影響でさらにその機会も減っています。当館では、沖縄戦体験者の方々へ聞き取り調査を行い、「証言映像」として公開しています。今回、2021年度に公開された証言の中から6名の体験者を紹介しています。壮絶な戦争を生き抜いてこられた方々から私たちへ伝えたいメッセージを受け取り、平和について考えてみましょう。



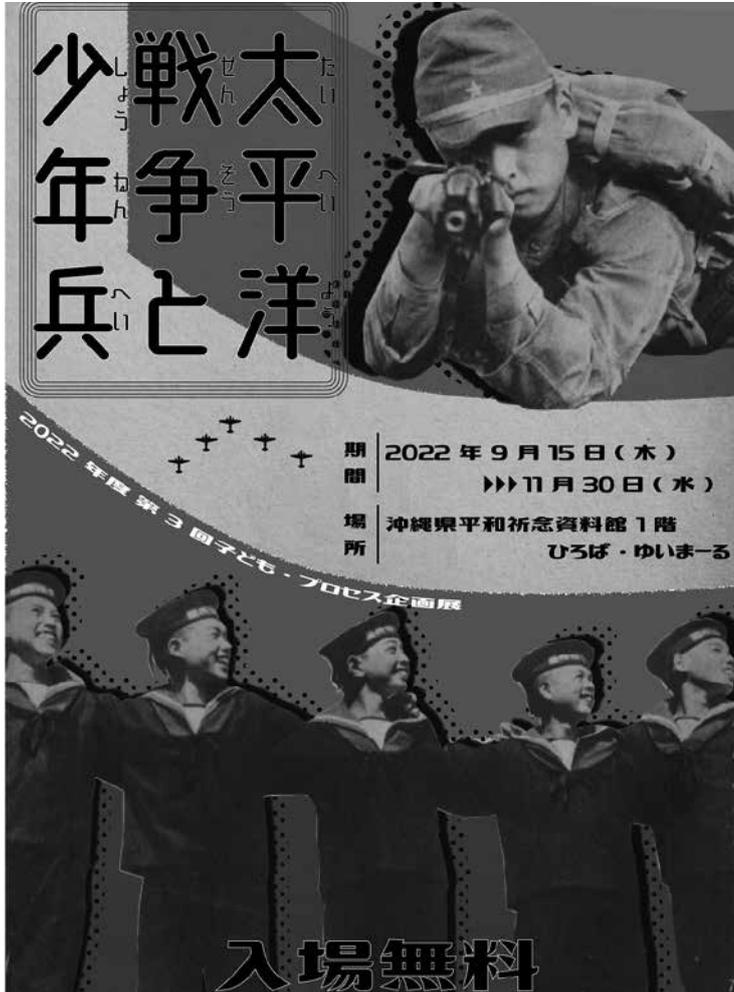
上原美智子さん



大城藤六さん

# 第3回 子ども・プロセス企画展 太平洋戦争と少年兵

**期間** 2022(令和4)年9月15日(木)～11月30日(水)



かつては日本でも、多くの子どもたちが軍隊に入っていました。企画展「太平洋戦争と少年兵」では、子どもたちが憧れた少年兵について取り上げ、募集内容や兵士の養成、戦闘の状況、特攻隊への動員などについて展示します。また、沖縄戦において、多数の少年が日本軍によって学徒隊や防衛隊に動員され、犠牲となった状況についても展示します。多くの子どもたちを戦場に追い立て、命を奪った太平洋戦争の実相について学び、過ちを繰り返さないためにはどうすればいいのかを児童生徒が考える機会とします。



「太平洋戦争と少年兵」のコーナー



「沖縄戦と少年兵」のコーナー

## 米国駐日大使来館

2022年4月27日

アメリカのラーム・エマニュエル駐日米国大使とエイミー夫人が、当資料館と平和の礎を訪れた後国立戦没者墓苑に献花されました。



## ノルウェー駐日大使来館

2022年9月23日

ノルウェーのインガ M.W. ニーハマル駐日大使(右から3番目)とトーレ夫君(右から2番目)が、平和の礎を訪れた後、当資料館へ来館されました。



## 入館者数800万人達成!

開館以来、県内外から多くの皆様が当資料館を訪れています。2022年7月20日(水)には、愛知県から訪れた小嶋康孝さんご家族が800万人目の来館者となりました。小嶋さんは、「光栄だ。子どもたちに平和の心を持ってもらいたく立ち寄りました。未来の世界平和の一員になれるように子ども達には期待している。」と思いを話してくれました。



(右から) 小嶋康孝さん、幸子さん、啓太郎さん、遼介さん、前川館長

## 第2回 子ども・プロセス企画展 チャレンジ！夏休み自由研究

ー 沖縄戦やアメリカ統治下の沖縄について調べてみようー

期間 2022(令和4)年7月22日(金)～8月31日(水)

毎年夏休みには、子どもたちの自由研究を応援する企画として、企画展「チャレンジ！夏休み自由研究」と「自由研究相談室」「子ども教室」を開催しています。ところが、新型コロナウイルスの感染拡大により、自由研究に関する企画は停止していました。

今年は、ようやく3年ぶりに開催することができました。子ども・プロセス企画展は、日本復帰50周年にあたることから、「チャレンジ！夏休み自由研究ー沖縄戦やアメリカ統治下の沖縄について調べてみようー」をテーマとしました。また、企画展の会期中は、情報ライブラリーで「夏休み自由研究相談室」を開催しました。自由研究のテーマ選びやまとめ方などの質問に対応し、小中学生32人の利用がありました。7月31日(日)には、沖縄戦について学習し自由研究ノートにまとめる「夏休み子ども教室」を開催しました。新型コロナの感染再拡大という悪条件でしたが、2家族5人(小学生3人)が参加し熱心に学習していました。



夏休み子ども教室



## 八重山平和祈念館 企画展

【戦争を『自分事』として考える～時を超えて、国を超えて～】

期間 2022(令和4)年6月10日(金)～7月10日(日)

場所 八重山平和祈念館 第二展示室

今年度の企画展は、ロシアのウクライナ侵攻により、世界中が不穏な空気に包まれる中、平和な世界を実現するために、私たちに何ができるのかを考えてもらうキッカケとなるように取り組みました。昔の戦争、他国・地域の戦争を「自分事」として捉えること、他者の記憶や記録を「自分事」として感じ、考え、一人一人がこれからの平和をつくる当事者であることを意識するように考えてみました。

「疎開・避難民」コーナーでは、沖縄戦当時、八重山住民の台湾疎開や学童疎開船対馬丸と現在の難民・避難民の状況を地図や写真を使い、体験者の証言の理解を深められるように工夫しました。「学徒・子ども兵士」では、八重山鉄血勤皇隊と現代の紛争地で戦場に立たされている子どもの兵士を比較し、体験者の証言や絵、写真を並べて展示しました。「科学技術の発展と武器」では、狩猟採集時代から現代における技術発展の歴史と、新しい技術が簡単に武器に転用され多くの被害をもたらすことを説明パネルで紹介しました。「触れて考える」では、石垣島で編成された「第506特設警備工兵隊」(通称「みのかさ部隊」)の「鉄かぶと」を関係者の証言や写真などを参考にしながら複製製作し、展示することができました。



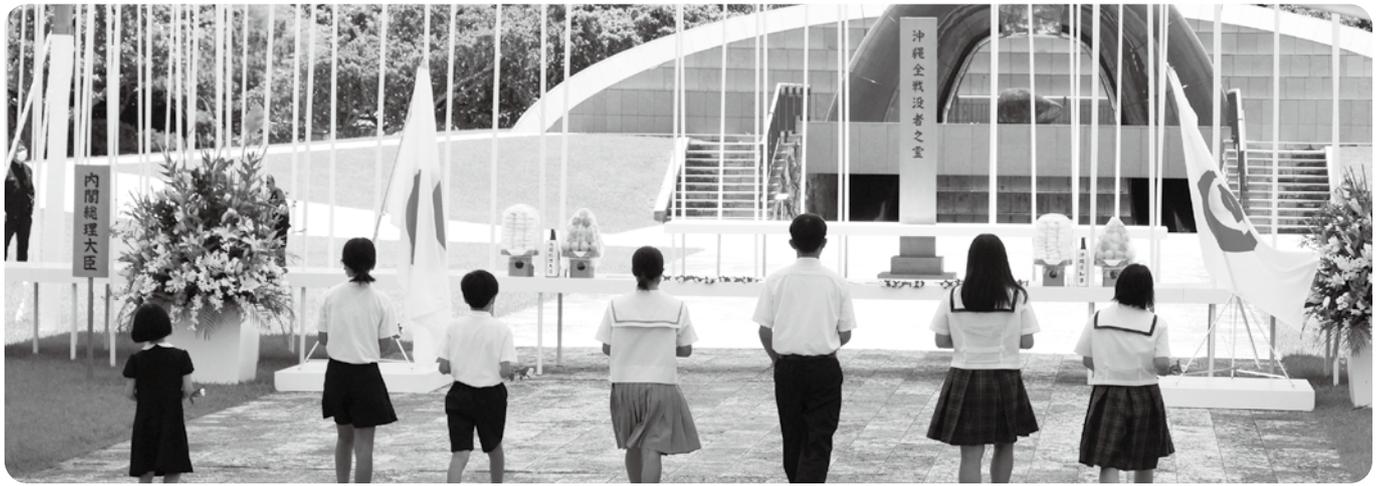
実物資料に触れて重さや質感などを確認する白保小学校の皆さん



鍛冶師の池村泰欣さん



当時と同じ製法でドラム缶を使い製作した「陣笠の形をした鉄かぶと」



## ～つなぐ～繋ぐ～TUNAGU～

戦後77年目の「慰霊の日」、全県民の注目が集まる中、沖縄市立山内小学校2年生徳元穂菜さんの詩「こわいをして、へいわがわかった」が朗読されました。子どもの視点から素直で「へいわのこころ」を表現したすばらしい詩でした。

現在、世界中の至る所で戦争や民族間の紛争、飢餓や感染症の拡大、子どもの貧困など様々な問題が起こっています。近年は、異常気象による災害が発生し、エネルギー資源の枯渇や人口問題等、子ども達の未来は決して明るいものではありません。しかし、毎年開催される本県の児童・生徒の平和メッセージには、「沖縄戦の記憶」を決して風化させてはならないという強い思いがしっかりと継承されており、祖父母から親や子孫世代へ記憶をつなぐ式典となっています。

沖縄戦最後の激戦地・摩文仁の地に「平和の礎」が建立されて27年、祈念公園では慰霊の日が近づくと家族揃って戦没者の刻銘碑に手を合わせ、子の成長と平和を祈り、お互いの絆を確認しあう場として沖縄の風俗習慣となっています。

これから先、世界がどのような時代になろうとも、先人達から受け継いだ命のバトンを繋ぎ、平和の和をTUNAGU（つないでいく）たゆまない努力をひたすら続けていくことが大切です。

今年は第7回世界ウチナンチュ大会も開催されます。世界中のウチナンチュ（沖縄系の人々）がウヤファーフジ（ご先祖様）から受け継いだ文化を継承し「平和の思い（ウムイ）」を世界へ発信していければと願っています。

### 第32回「児童・生徒の平和メッセージ」詩部門 小学校低学年の部 最優秀賞 令和四年沖縄全戦没者追悼式「平和の詩」朗読作品



山内小学校二年  
徳元 穂菜

## こわいをして、へいわがわかった

びじゅつかんへお出かけ  
おじいちゃんや  
おばあちゃんも  
いっしょに  
みんなで出かけ  
うれしいな

こわくてかなしい絵だった  
たくさんの人がしんでいた  
小さな赤ちゃんや、おかあさん

風ぐるまや  
チョウチョの絵もあったけど  
とてもかなしい絵だった

おかあさんが、  
七十七年前のおきなわの絵だと言った  
ほんとうにあったことなのだ

たくさんの人たちがしんでいて  
ガイコツもあった  
わたしとおなじ年の子どもが  
かなしそうに見ている

こわいよ  
かなしいよ  
かわいそうだよ  
せんそうのはんたいはなに？  
へいわ？  
へいわってなに？

きゅうにこわくなって  
おかあさんにくっついた  
あたたかくてほっとした  
これがへいわなのかな

おねえちゃんとけんかした  
おかあさんは、二人の話を聞いてくれた  
そして仲なお  
これがへいわなのかな

せんそうがこわいから  
へいわをつかみたい  
ずっとポケットにいれてもっておく  
ぜったいおとさないように  
なくさないように  
わすれないように  
こわいをして、へいわがわかった



# 児童・生徒の平和メッセージ展

## 入賞者一覧(優良賞以上)

### 図画の部入選者

小学校(低)の部(10名)			
最優秀賞	知念由依	天久小3年	
優秀賞	中野結月	北大東小3年	
	新里月愛	北大東小1年	
優良賞	與那覇乃唯	宮森小3年	
	大城都瑠	北大東小3年	
	知念慶	天久小1年	
	兵道ゆい	安波小1年	
	成田晴大	宮良小2年	
	糸数真紘	北大東小2年	
	柴田桂	安謝小2年	
	小学校(高)の部(10名)		
最優秀賞	吉濱日彩	前田小5年	
優秀賞	野國ひより	北谷第二小6年	
	仲栄真芽衣	中城小6年	
優良賞	松川潤星	ゆたか小6年	
	伊良皆沙衣	上田小6年	
	波平のえる	城北小6年	
	運天ちあり	ゆたか小6年	
	赤嶺里桜	城北小6年	
	仲里俐美香	北谷第二小6年	
	山口叶愛	伊良部島小5年	
	中学校の部(11名)		
最優秀賞	狩俣唯希	狩俣中3年	
優秀賞	坂井菜妃	平良中3年	
	國吉碧衣	仲井真中3年	
優良賞	照喜名美紗	松城中1年	
	當眞椿	宜野座中3年	
	奥平唯華	平良中3年	
	呉屋美優	港川中3年	
	瀬長藍	豊見城中2年	
	城間柚乃	港川中2年	
	花城くるみ	玉城中1年	
	池間華乃	城東中3年	
	高等学校の部(10名)		
	最優秀賞	吉原すみれ	開邦高1年
優秀賞	堀井咲希	開邦高1年	
	平良ハイディアン	小禄高3年	
優良賞	田里香夏	開邦高2年	
	奥間ゆず	開邦高2年	
	金城早耶	開邦高2年	
	近藤那保	開邦高1年	
	川満彩貴	真和志高3年	
	鯉沼采音	開邦高2年	
	比嘉志優	開邦高2年	
	特別支援の部(6名)		
	最優秀賞	宮城玲音	港川中3年
	優秀賞	下地藍輝	城辺小5年
長嶺杏音		与儀小3年	
優良賞	東川平陸生	上田小6年	
	櫛田亜美	与儀小5年	
城間ゴント	長嶺中2年		

### 作文の部入選者

小学校(低)の部(3名)		
最優秀賞	知念由依	天久小3年
優秀賞	知念慶	天久小1年
優良賞	柴田桂	安謝小2年
小学校(高)の部(4名)		
最優秀賞	該当者なし	
優秀賞	親川愛生	知念小6年
	上原ゆの	八島小6年
優良賞	東崎原夕奈	八島小4年
	玉城晴基	八島小4年
中学校の部(7名)		
最優秀賞	花城さくら	玉城中3年
優秀賞	多和田真央	首里中3年
	馬屋原颯介	開邦中2年
優良賞	富村一善	首里中2年
	柴田勝	安岡中2年
	安慶田翔子	南風原中2年
	上地絢加	長嶺中3年
高等学校の部(9名)		
最優秀賞	金城陽詩	開邦高2年
優秀賞	外間凜	首里高2年
優良賞	長嶺稀歩	向陽高2年
	大田奈央	那覇商業高3年
	志良堂結	開邦高1年
	田島茉瑚	開邦高3年
	平良優名	首里高1年
	宮城ひなた	開邦高2年
	堀川景人	那覇国際高2年
	特別支援の部(6名)	
最優秀賞	石川恭悟	沖縄高等特支2年
優秀賞	神谷空	沖縄高等特支2年
	當銘由亮	沖縄高等特支2年
優良賞	仲村穂乃香	沖縄高等特支1年
	福治莉久	沖縄高等特支1年
新垣栄斗	南風原高等特支3年	

### 詩の部入選者

小学校(低)の部(4名)		
最優秀賞	徳元穂菜	山内小2年
優秀賞	知念慶	天久小1年
優良賞	嘉手納皇輝	上田小1年
	屋宜琉夢	大名小2年
小学校(高)の部(11名)		
最優秀賞	大和碧	沖縄アミークス小6年
優秀賞	徳元千時	山内小5年
	前上里珠吏	八島小4年
	松村有佐子	沖縄アミークス小5年
優良賞	外間知夏	とよみ小6年
	上間叶葵	北谷小4年
	新里竜也	北大東小4年
	金城佳蓮	沖縄アミークス小5年
	比嘉希芽	翔南小6年
	柴田玲	安謝小6年
	仲間彩音	翔南小6年
	中学校の部(10名)	
最優秀賞	宮城莉子	開邦中3年
優秀賞	上原美春	西辺中3年
	大城ゆず	南風原中3年
優良賞	大城陽菜	長嶺中3年
	上原菜々笑	石田中1年
	池田萌愛	長嶺中3年
	島袋蒼大	豊見城中1年
	仲村ひめな	神森中3年
	神谷桃子	神森中3年
	前富里恭太	開邦中2年
	高等学校の部(5名)	
最優秀賞	仲里すみれ	開邦高1年
優秀賞	兼謝名彩音	読谷高3年
	南慎之輔	八重山高3年
優良賞	松田未空	読谷高3年
	有馬一愛	豊見城高2年
特別支援の部(3名)		
最優秀賞	當間叶望	鏡が丘特支1年
優秀賞	與那嶺洸貴	沖縄高等特支3年
優良賞	川門凜	美咲特支3年

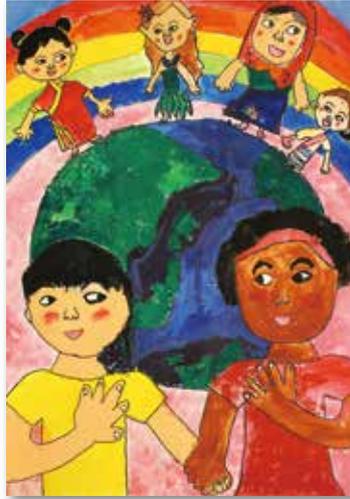
# 第32回 「児童・生徒の平和メッセージ」図画入選作品

## 特別支援の部



最優秀 宮城 玲音

## 小学校(低)の部



最優秀 知念 由依

## 小学校(高)の部



最優秀 吉濱 ひろ彩

## 中学校の部



最優秀 狩俣 唯希

## 高等学校の部



最優秀 吉原 すみれ

## 臨時休館のお知らせ



館内改修工事に伴い、2022年12月1日～2023年4月30日の期間は、臨時休館になります。  
なお、平和祈念公園・平和祈念堂は通常通り見学は可能です。

編集・発行：沖縄県平和祈念資料館

住所 〒901-0333 沖縄県糸満市摩文仁614番地の1  
URL <http://www.peace-museum.okinawa.jp/>

TEL 098-997-3844 FAX 098-997-3947  
E-MAIL [webmaster@peace-museum.okinawa.jp](mailto:webmaster@peace-museum.okinawa.jp)

